

巻頭言

2009. 9月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

積み上げていく「努力」が合格をつくる！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

長い夏が終わりました。ふり返ってみるとあっという間の事だったように思えますが、受験生にとっては、長い夏休みだったはずです。特に受験学年の生徒は、休みの日以外は、朝から晩まで12時間近い学習量でした。学習への意識は大きく変わってきているはずですがどうでしょうか？実際、夏前と比べると生徒の集中力は格段に上がってきていると思います。といっても、そこから成績がうなぎのぼりに上がっていくとは限りません。つまり、そのくらいの努力は意識の高い受験生なら誰もがしているからです。甘い幻想はどうしても期待を裏切ります。ここから更に正念場という意識を持つ必要があるのです。

頑張った生徒ほど9月は気が抜けることも多く、成績の結果に必ずしも夏の努力の結果が出ないというのが長年の経験上で感じることです。でも、夏にきちんと積み上げなかった生徒の場合は、必ず、9月だけ成績が取れても、その後が次第に下がっていきます。

成績結果でみるよりも、本人の学習状況の方が大切ということです。「成績結果」に振り回されると、一喜一憂目先の点数にこだわる勉強になりますから、ちょっと成績が上がると思い上がり、下がると落ち込む型の不安定な学習スタイルとなり、模試自体が合格を占うような地に足の着かない勉強になります。各教科各単元の理解を深めると同時に思考力のレベルを上げていく時期に空回りが起こってしまいます。つまり、今の時点では学習に対してどういう風に向かっているのかという事の方がずっと大切だということ。効果はともかく本人の中にテスト結果というよりも、知識獲得や内容理解に対して懸命な部分が出てきていれば、いずれ必ず成果が出るし、そこが受験本番では一番大切なことだからです。受験結果が模試の結果と同じと限らない所以もそこにあります。模試は自分の弱点やテストでのタイミングを知るための重要なポイントになってきますが、それに振り回されてしまうと、実際の受験（それぞれの学校で、形式も出題の傾向も異なる）では、「習ったことが出なかった。だからできなかった……。」というような結果になります。

夏の合宿の最初の開会式で、受験における「気持ち」の大切さについて、お話しました。つまり、どんなに能力が高くても、学習量を積んで鍛えていっても、最後に勝負を決めるのは「精神力」という事です。毎年、甲子園の試合を見ていると特にその事を痛感しますがどうでしょうか？

受験に入ると、合格を確信しているレベルの学校でも、不合格になることがあります。そんなときに、動揺して結局全てを台無しにしてしまうこともあります。今年はインフルエンザの大流行も考えられますから、事が起こったときの冷静な対応が重要になるかと思えます。

合宿自体は過去最高の652名の参加で例年以上に大きな盛り上がりを見せました。

高校生の中でA型インフルエンザの感染があり、何事も自分が思う以外の突然の出来事に振り回されることになる事を痛感しました。危機管理ということなのですが、受験ということで考えても、多くの人の理解と協力で切り抜けていく必要があります。何かが起こったとき、動じない精神力を受験のチームとして作り上げていくことが、ここからは本当に大切だと思います。

夏期講習も合宿も言ってみれば小さな積み重ねのひとつに過ぎません。ただし、あとで大きく生きてくる積み重ねなのです。一つ一つは小さなことのようにですが、その積み重ねが「合格」をつくるということです。

受験本番まで、様々な訓練をしていきます。さらに今年は、規律正しい計画性のある学習が合格への必須条件になるかと思えます。受験をするのは受験生本人です。見落としがちですが、本人の自覚と成長が合格への大きな一歩であることは間違いありません。